



第66回

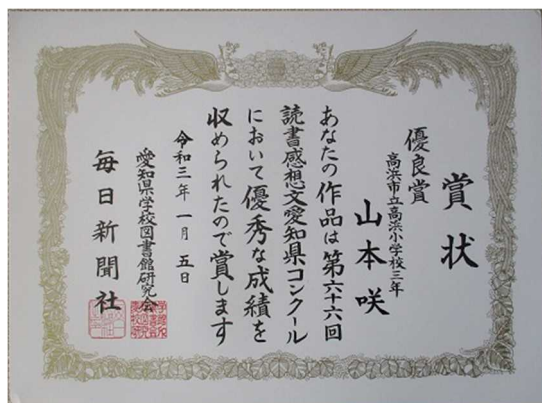
読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。

青少年読書感想文全国コンクール

主催／公益社団法人 全国学校図書館協議会・毎日新聞社 後援／内閣府・文部科学省 協賛／サントリーホールディングス株式会社

おめでとう！愛知県優良賞受賞 高浜小学校 3年 山本 咲さん

『かあちゃんの取扱説明書』 いとうみく著 佐藤真紀子絵 童心社



夏に読書感想文コンクールに応募した本校3年の山本咲さんが、先日、愛知県学校図書館研究会より優良賞を受賞しました。本は、『かあちゃんの取扱説明書』です。あいにく緊急事態宣言下のため授賞式は中止となりましたが、栄えある賞をいただきましたので、受賞感想文を載せ紹介します。子どもたちはもちろん、保護者の皆様にも、是非、読んでいただけたらと思います。きっと、私もそうだと共感したり、家庭を振り返ったりされるのではないのでしょうか。

原作もお薦めです。なお、感想文を読んだ市の学校司書さんが寄稿してくれましたので、感想文の後に載せさせていただきます。では、・・・

<感想文>

わたしは、漢字ばかりのむずかしそうな取扱説明書というものを一度も読んだことがない。だけど、雪だるまにもロボットにも見えるふしぎな絵がかかれた、このかあちゃんの「取扱説明書」りやくして、「トリセツ」は一体どんなかあちゃんなんだろうと気になって読んでみたくなった。

この本は、ガミガミうるさいかあちゃんをおこらなくするにはどうしたらいいか、思い通りにするにはどうすればいいかを考えながら、てつやがかあちゃんのトリセツを作っていくお話。

わたしのお母さんもおこりんぼうだから、てつやのおこられたくない気持ちがよく分かる。だけど、わたしもお母さんにおこってしまう時があるから、もしかしたらお母さんもわたしのトリセツがほしいのかもしれない。なぜかという、わたしの家には、「子どもが〇〇になる子育て」とか、「〇〇才までの育て方」と書かれた子どものトリセツみたいな本がたくさんあるからだ。お母さんはそういう本を読むと、しばらくやさしくなることがある。だけど、三日もたてばおこりんぼう母さんに元通り。

「ねたらいいこともわるいことも、全部わすれちゃうの。」

と、そんなにわすれっぽいなら、お母さんもてつやのようにわたしのトリセツをノートに書いてほしいと思った。

だけど、トリセツは本当にひつようだろうか。だって、ガミガミ言わずニコニコのかあちゃんになったのに、てつやはソワソワして落ち着かない様子だったからだ。わたしはその時、

「今日こそは、おこるのをやめる。」

と、お母さんがせんげんした日のことを思い出した。わたしはうれしくなって、やらなきゃいけないことを後回しにして遊んでいたら、宿題が終わっていないこと、夜ねる時間をすぎたことにだんだんふあんになっていった。

いつもガミガミ言われるのがいやだったはずなのに、ぜんぜんおこられないのもさみしいと感じた。だから、いつも通りのお母さんがいいと思った。てつやもそう感じたのかもしれない。

てつやは、トリセツを作るためにかあちゃんをよく見て考えていたら、かあちゃんのやさしいところやおこる理由を知ることができた。てつやのとうちゃんが言った、

「人は気づかないうちに、相手のことを見て考えながら、頭の中でトリセツを作って、人とつき合っていくんじゃないか。」

という言葉の通りだと思った。人とつき合っていくには、相手のことをよく知り、相手の気持ちをよく考えていくことが大切なんだと思う。

この本を読み終えて、「お母さんはとにかくほめる、おこられる前にやるべきことをする」そして、「とりあつかい注意」と、わすれないようにノートに書こうと思った。



『かあちゃん取扱説明書』
いとうみく著 佐藤真紀子絵 童心社

<図書カウンターより>

むずかしい取扱説明書は読んだことがないけれど、表紙に描かれた雪だるまのようなヘンテコな物体に惹かれて選んだと書かれていて、思わず微笑んでしまいました。本棚を整えるとき、表紙を見せることが大事とあらためて思いました。

あらすじは短く、2～3行。これだけで伝わり、うまいなと思いました。本文のほとんどは、本を読みながら、自分なら、自分の家族ならどうするだろうと思いをめぐらし、それを書きとめて整理したものです。感じたり考えたりしたことが素直に伝わってくる感想文に感心しました。キーワードになる言葉の引用も話の展開に効果をあげています。

『かあちゃん取扱説明書』の中の家族やともだちはどの人も魅力いっぱいですが、感想文に書かれた3年生の家族の様子が生き生きと感じられ、とても愉快的気持ちになりました。本を選び、読み通し、感じたことを深め自分ならどうするだろうと考えてまとめ、それを人に伝える。この経験がきっと未来のあなたを力づけてくれるはずです。これからも本との出会いを続けてくれることを願っています。
(高浜市学校司書)

(文責 中川健二)